

「トンガ王国における南太平洋医療隊の歯科保健の活動」

○河村康二、河村サユリ
南太平洋医療隊

南太平洋ポリネシアに属するトンガ王国は人口約11万人、本島トンガタブと3つの諸島大小170余りの島々からなる。1998年より南太平洋医療隊はトンガ王国において歯科医療、保健活動を行っている。トンガ王国では、王立バイオラ病院歯科室では十数名の歯科医師、デンタルセラピスト、デンタルナースが従事し、抜歯、セメント充填(ART)等の処置を行っていたが、器材、器具の不備により保存可能な永久歯を抜歯、予防歯科及び保存処置の不備を眼にした。診療はある程度トンガ人で行う状況が確保されていると考えられ、予防を重点とした活動に切り替えた。学校を中心とした保健活動を歯科室に呼びかけ、1999年より幼稚園、小学校において歯科健診、歯科保健指導、フッ化物洗口を開始した。

トンガ王国ではDMFT=1(WHO, 1986年)という低い齲蝕有病者率であった。また足立らは1976年から食事調査を実施し本島と離島では食物群摂取状況に違いが無いことを述べている。私達が行った2001年の歯科疾患の調査結果では12歳児の平均DMFT本島4.85(男子4.40女子5.81)、離島2.60(男子1.83,女子3.75)、齲蝕有病者率本島89.4%(男子88.9%,女子90.5%)、離島70.0%(男子66.7%,女子75%)であった。本結果は本島と離島に差が存在することを示した。食生活調査では本島では近代的な菓子類の摂取や甘味飲料が常飲されているが、離島では伝統的な食品(イモ類)が好まれ水を食事と共に摂取する事を好んでいた。齲蝕と食生活調査の結果から食文化の変遷や予防教育の遅れが考えられた。さらに歯周組織に関する調査の必要を考え、2003年現地に合った歯肉炎の評価を目的とした活動を行った。視診による評価で、10-12歳児でMild以上所見所有者の割合は、トンガタブ本島(町)53.8%、トンガタブ本島(村)51.5%、離島40.9%であった。低年齢の結果は年齢の増加に伴い、異常を認める者の割合も増加傾向にあった。参考に調査した同年齢日本学童の値は77.6%であった。出血(+)者は、トンガタブ本島(町)19.1%、トンガタブ本島(村)21.1%、離島10.1%であった。離島ではトンガタブ本島(町)、トンガタブ本島(村)に比べ有意に低い値であった($p < 0.05$)。また、日本の10歳~12歳の出血(+)者率は58.8%で、トンガ王国の方が有意に低かった($p < 0.01$)。歯肉炎の状態はトンガの学童が日本の学童よりも状態が良く、トンガ王国内では離島の学童が本島の学童より良かった。近代化、食生活の違いが主たる原因と考えられる。

2000年では本島4小学校、離島2小学校、3幼稚園であったが、2005年現在では、本島4幼稚園、13小学校、離島2幼稚園、5小学校で実施するようになった。1999年当初我々の活動に

対してトンガ健康省は冷ややかであったが、学校保健の活動の必要性を訴え歯科健診の場を設定するようお願いした。幸いトンガ人歯科医師の中から理解を示す者が現れ小学校に健診に行けるようになった。又離島では海外協力隊の隊員で幼稚園に勤務する者が歯科保健活動に協力するようになりフッ素洗口を開始した。

2000年には私達に信頼を寄せるトンガ人の歯科医師が日本に留学をし、日本の保育所でのフッ化物洗口の実施を研修する事で理解を深め、小学校でのフッ化物洗口が開始される事となった。これを機にトンガにおける実施校で歯科保健指導、歯面別のウ蝕検査、食生活調査、フッ化物洗口、歯肉炎の診査はスムーズに捗るようになった。2001年にはトンガ健康省歯科室は専従の歯科医師、デンタルセラピスト、デンタルナースからなる予防歯科チームを配属し学校保健活動、フッ素のデリバリーを行うようになった。2003年になると新しい施設で始めたいとトンガ歯科室から声が出始め、薬剤、器材、器具のサポートをするようになった。2004年ではトンガ人自らがこの保健活動を推進する事となり施設の拡充を図るようになった。トンガ健康省歯科室が主体的に取り組むようになる機会を捉え2005年8月は予防歯科チームだけでなく他の歯科スタッフ、他の職種医師、栄養士、保健師の協力、幼稚園、小学校の施設の関係者等を対象にワークショップを開催し現在までの報告とフローリデーシヨンの教育、今後の保健活動のあり方を提示した。さらに施設だけの活動に止まらずより多くのトンガ人の理解を深める為、町に出て市場でのイベントの開催を行い一般市民に口腔保健に関する啓発活動をした。施設幼稚園、小学校更に中学校へと歯科保健活動が広がり人々のヘルスプロモーションの高まりに期待する。

【謝辞】

常に南太平洋医療隊の活動にご支援・ご協力をいただいた日本大学松戸歯学部社会口腔保健学講座、日本大学松戸歯学部国際保健部、トンガ国立VAIOLA病院に感謝いたします。

ID:kawamura@pb3.so-net.ne.jp
<http://spmt.jp/>